



水素利活用推進プロジェクトの推進と令和5年度の取組

現状と課題

① 地域資源の好循環に向けた再生可能エネルギー由来の水素の利活用推進

【現状】

送電網の脆弱な地域における太陽光発電を利用した水素製造と園芸・畜舎等での利活用の可能性を調査

【課題】

水素サプライチェーンに参入可能な事業者の掘り起しや資金確保策等の検討が必要

② 水素関連製品等の普及促進

【現状】

岩手県水素ステーション等研究会を設置（R1）し、水素ステーションとFCVの導入に優先着手。

⇒水素ステーションは補助対象事業者公募中。事業者数社に説明済。

【課題】

FCVの普及に必要な不可欠な水素ステーションの導入を進めるためには、運営候補となる事業者への丁寧な説明と理解促進が必要

③ 水素関連ビジネスの創出・育成

【現状】

水素サプライチェーンへの参画を促すため、県内事業者・市町村・産業支援機関・公設試験研究機関向けに水素関連事業シンポジウムを開催。

【課題】

再生可能エネルギー由来の水素製造など、関連産業への県内企業の参入に向けて更なる機運醸成が必要

④ 水素の理解促進・地域連携

【現状】

理解促進等を目的としたイベント・勉強会を開催。

【課題】

水素利活用を推進することについて、化石燃料代替としての水素の優位性や将来性について県民の理解促進を図る必要。

※水素と同様に化石燃料代替エネルギー源として注目されている「アンモニア」については、国の動向を注視

今後の展開

① 地域資源の好循環に向けた再生可能エネルギー由来の水素の利活用推進

令和4年度の調査結果等を踏まえ、参入可能性のある事業者等と連携し、再生可能エネルギー電力を活用した水素利活用の取組を推進。※地域新電力の活用も検討

② 水素関連製品等の普及促進

モビリティ（FCV、燃料電池フォークリフト）を中心とした導入の働きかけによる水素ステーションの実現。

③ 水素関連ビジネスの創出・育成

再生可能エネルギー電力からの水素製造・貯蔵、設備設置工事、メンテナンスなどの水素関連ビジネスの創出・育成に向けた取組を推進

④ 水素の理解促進・地域連携

水素の安全性や利便性についての普及啓発、環境学習等を通じた理解促進、水素利活用の取組紹介、気候変動イベント等でのFCVの展示、公用車としての実走行等によるPR

令和5年度の具体的な取組

① 地域資源の好循環に向けた再生可能エネルギー由来の水素の利活用推進

水素利活用に向けて、水素サプライチェーンへの参入可能性のある事業者との意見交換を実施

② 水素関連製品等の普及促進

事業者ニーズを踏まえた制度改善を行いながら、引き続き水素ステーション整備費やFCV購入費補助を実施

③ 水素関連ビジネスの創出・育成

水素ステーション等研究会会員との意見交換や、セミナーの開催などにより県内企業等の機運醸成

④ 水素の理解促進・地域連携

ホームページ（わんこ節電所）や各広報媒体での情報発信や、FCVの実走等により県民へのPR活動を実施

※水素利活用による再生可能エネルギー推進事業費 64百万円
【政プロ費】 により実施

1 再生可能エネルギー由来の水素の利活用推進に向けて調査が進む

- 太陽光発電電力による水素製造、畜舎等での利活用可能性調査を実施
- 地域でのエネルギー地産地消に向け、企業の参画意向調査等を実施



2 水素ステーション整備に向けた取組が進む

- 県補助金による水素ステーション及びFCV普及に向けた支援を開始 (R4)

3 水素関連ビジネスの創出・育成に向けた準備が進む

- 事業者向けにサプライチェーン構築をテーマとしたシンポジウムを開催

4 水素に対する理解が進む

- 事業者や市町村向けに水素の理解促進を目的としたセミナーや先進地視察等を実施

(参考) 全国で水素利活用に向けた取組が進む

- 国は、2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略 (R3.6) において、成長が期待される分野のひとつに水素・燃料アンモニア産業を掲げ、政策を総動員。

(目標例)

2030年までに、水素ステーションを
1,000箇所整備 (現: 約160箇所)



FCV



岩手県水素ステーション等研究会の活動
(水素ステーション視察)



FCV展示による理解促進
(いわて温暖化防止フェア)